

ワザ伝プロジェクト in 福島

キッズワークショップ2018

開催
 しました!

「日本の中小企業の技術子どもたちにつなげ、モノづくりの魅力を伝えたい」というコンセプトのもと、当法人が立ち上げた「ワザ伝」プロジェクト。2回目となる今回は、3月10日(土)、福島市の教育文化複合施設「福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館」にて、小学生向けの体験型ワークショップを開催しました。

1,800人以上が来場!
 福島子どもたちにモノづくりの
 魅力を体験してもらいました!



当法人は、子どもたちに中小企業の技術や日本の伝統工芸技術、モノづくりの魅力を伝え、将来の職業選択にも役立ててもらうために、キッズワークショップを実施してきました。昨年3月に福島市で開催した「キッズワークショップカーニバルinふくしま2017」や、東京国際フォーラムで行った「丸の内キッズジャンボリー2017」など、さまざまなイベントに出展する中で、「より多くの子どもたちにモノづくりの面白さを届けたい」と新たに立ち上げたのが「ワザ伝」プロジェクトです。

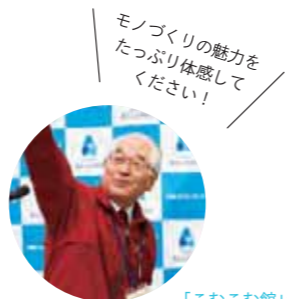
第1回目は熊本県で主催し、のべ500人を動員。多くの参加者の好評を博し、第2回目となる「ワザ伝」プロジェクトinふくしまの開催に至りました。

今回は、東日本大震災の被災地支援の意味も込めて、福島市の「こむこ

む館」と当法人で主催。「こむこむ館」の全フロアを使って小学生向けのワークショップ全11プログラムを実施しました。

オープニングセレモニーでは、イベント趣旨について説明するとともに、各プログラムの講師を紹介。過去にワークショップにご参加いただいた企業や初出展の企業をはじめ、福島工業高等専門学校や東北福祉大学、福島放送など、地元の方々にもご協力いただきました。「こむこむ館」館長の入野修氏も登壇し、「モノづくりを思う存分楽しんでほしい」と開会宣言をしました。

当日は1,800人以上の方にご来場いただき、受付から約15分で定員に達してしまう回や、開始1時間前から行列になるワークショップもあるほど、会場は熱気にぎわいに包まれました。

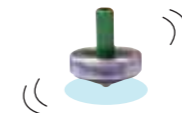


「こむこむ館」館長
 入野 修氏



ピックアップ 01

精密コマづくり



精密コマづくりを通して金属の加工技術をレクチャーしたのは、宮城県で製造業を営む企業集団「仙南マシクラブ*」の方々です。最初にクイズを通して身の回りにある金属や加工方法について解説。硬い金属板を一瞬できれいな型にするプレス加工を動画で紹介すると、子どもたちは興味津々に。

精密コマは、コマを回す持ち手とリング状の胴体、軸の先端部分の3つのパーツを組み合わせて作ります。パーツは色とりどりで、形状によって回り方や強度も異なるため、子どもたちの目は真剣そのもの。形が決まったら、いよいよ金属加工の「圧入」へ。胴体と持ち手を機具にセットし、レバーを下ろして合体。仕上げに軸の先端部分をネジ回しの要領で埋め込みます。職人の手を借りながら、繊細で意外と力のいる作業を一生懸命行いました。最後は、トーナメント形式でコマ対戦。中には5分以上回り続ける長期戦もあり、精密コマの精度と面白さに子どもも保護者も盛り上がりました。

*仙岩沼精工、(株)テクノニッセイ、イケダ工機機、(株)ヒキチ



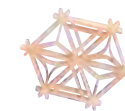
レバーを下ろすだけなのに結構力がいるよ!



子どもたちに精密コマの上手な回し方を教えている仙岩沼精工の千葉厚治氏。

ピックアップ 02

鹿沼組子でコースターづくり



木材で美しい模様を表現する組子。ヒノキの香りが広がる会場には、講師の(有)豊田木工所の職人による工芸作品が展示され、組子を初めて見る子どもたちは目を輝かせていました。

冒頭は、組子の歴史や技術についてクイズ形式で紹介。組子にはクギが使われていないことや、江戸時代から続く伝統技術であることを発表すると、驚きの声が上がりました。

コースターづくりは、まずベースとなる正三角形が組み合わさった六角形の骨組みをつくることから始まりますが、じつはここが一番難しいところ。しかし、子どもたちは驚くようなスピードでコツをつかみ、麻の葉模様やゴマ模様など、気に入った模様を組み込んで次々と仕上げていきました。

早く終わった子はカンナ削りを体験。組子の繊細な部品を生む職人技を目の当たりにし、日本の伝統工芸の面白さに目覚めた様子でした。



力加減が難しいけどきれいに削れると気持ちいい!



組子は細かい部品が多いので、ワークシートに沿って丁寧に組み立てていきました。部品を折らないように自然と慎重な手つきに。



一緒に協力して完成!もっとうろんな模様をつくってみたい

シードームづくり



福島工業高等専門学校のモノづくり教育研究支援センターによるシードームづくりは、受付開始直後から長蛇の列ができるほど、子どもたちに大人気でした。シードームとは「スノードームの海版」で、空き瓶に地元福島の海で集めた貝殻や砂を詰め、2本の指で銅線に触れると光る仕組みの電子工作。電子部品やグルーガンなど、初めて扱う道具にどの子も悪戦苦闘していましたが、講師や学生の方々によるサポートもあり、電気の不思議を学びながら楽しくつくっていました。

シードームづくりの会場横では、同校による体験展示スペースもオープン。学生たちが考案してきた金属探知機や衝突しないモーターカー、圧力をエネルギーに変える発電機など、さまざまな体験アイテムに「どんな仕組みなの？」と子どもたちから続々と質問が飛び交いました。さらに、出展した学生にとっても小学生向けのワークショップは刺激になったようで、「次回はもっと興味を持ってもらえるようなプログラムを提案したい」と意欲を語ってくれました。



グルーガンはゆっくり接着剤が出るから焦らなくて大丈夫



好きな貝を選んで盛り付けるのが楽しい！



電子工作をセットした土台にグルーガンで貝を接着。空き瓶をかぶせてフタを閉めると完成です。



子どもたちに一つひとつの部品を解説しながら、優しくレクチャーする講師の広坂氏。



一生懸命つくったから負けたくない！

モノづくりを通して、中小企業の“ワザ”や“想い”を子どもたちと未来につないでいく



今回は、過去に当法人が実施したワークショップにご参加いただいた企業も多数出展しました。ラジオコントロールカー（以下ラジオコンカー）のメーカー(株)ヨコモもその一つで、ラジオコンカーづくりのプログラムを実施。講師には、世界大会で数多くの優勝を誇る広坂正美氏と川上哲弘氏をお迎えしました。

序盤は、「世界最速のラジオコンカーは新幹線よりも速く走れる」など、ラジオコンカーの驚くべき魅力を解説しました。続いて、広坂氏はランダムに置かれたペットボトルを10秒ほどで倒すという華麗な技を披露。思わず「すごい！」と歓声上がり、会場全体が大興奮に包まれました。

ラジオコンカーづくりでは、3~4人1組となって、テーブルに置かれたパーツがどの部品なのかを確かめながら、チーム一丸となってつくっていききました。最後は、仲間とつくったラジオコンカーでレースを開催。最初は壁に激突したり、逆走したり。試行錯誤しながら操作する姿に、仲間から熱い声援が送られました。

すっかりラジオコンカーのとりこになり、満面の笑顔を見せる子どもたちに、広坂氏は目を細めます。

「震災直後から福島でイベントを行ってきましたが、ここ数年でようやく子どもたちに本来の笑顔が戻ってきたような気がします。ただ、『これで十分』ということではなく、続けていくことが大切。今後もラジオコンカーを通して、仲間と一緒に作る面白さや勝つ喜びを伝えていきたいです」

そうした企業の想いやワザを子どもたちにつないでいく活動を、当法人はこれからも実施していきます。

こんなに速いなんてびっくり！諦めないで頑張れ〜！



実施プログラム

「こむこむ館」の1~4階の全フロアを使用して、プロの技を体験できる全11のプログラムを開催しました。

ピックアップ

- ★金属ってどうやって加工するの？
- ★伝統工芸「鹿沼組子」でコースターを作ろう！
- ★ふれると光るシードーム作り
- ★ラジオコンにふれ、走らせる～スペシャリストの技を体験～

★伝わる、伝えるアナウンス体験講座

地元福島のアナウンサーが伝え方の技を伝授。発声や表情について学び、実際にニュースを読む体験も。

[講師] 株式会社福島放送 安藤桂子アナウンサー



★モノづくりの体験展示スペース

金属探知機や障害物があると止まる車など、学生がつくったアイテムを展示。小さな子どもにも大好評でした。

[協力] 福島工業高等専門学校 モノづくり教育研究支援センター



★日本の伝統工芸「水引」で自分だけのしおりを作ろう！

長野県飯田市の職人が水引の結び方を紹介。伝統的な「あわじ結び」を学び、カラフルなしおりをつくりました。

[講師] 飯田水引プロジェクト



★匠の技 江戸風鈴の絵付けを体験

江戸時代から続く技でつくられた江戸風鈴の職人が絵付けをレクチャー。美しい絵柄と音に子どもたちもうっとり。

[講師] 篠原まよし風鈴 篠原正義氏



★わくわくサイエンス

鏡のない不思議な万華鏡づくり。分光シートで七色に分かれた光に子どもたちは「きれい〜！」と感動していました。

[協力] こむこむ館



★紙コップで、自分だけのロケットをつくろう！

紙コップや紙皿でおもちゃをつくるワークショップ。予想以上に飛ぶ紙コップロケットに歓声が上がりました。

[協力] 東北福祉大学 森明人ゼミ



★革細工を作ろう！

象・鳥・蝶の3種類の革小物を作成。革の質感や匂いに驚きつつ、動物ができていく工程に没頭していました。

[協力] ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)

